

聖路加看護大学・パラマウントベッド株式会社による産学連携事業 「クリティカルケア・シミュレーション 教育プログラムセミナー」開講

近年、高齢化の進展、また疾病の複雑化・重症化の傾向に伴いクリティカルケアを必要とする患者が増加しています。それによって、高度な状況判断能力と実践スキルを備えた看護師のニーズが高まっています。

このたび、聖路加看護大学の講師陣によって作成されたカリキュラムにもとづき、ICUなどの高度救命医療現場と同じ環境を再現したパラマウントベッド株式会社の「メディカル・デザイン・スタジオ」(東京都文京区本郷)にて行なわれる「クリティカルケア・シミュレーション教育プログラムセミナー」(SCC セミナー)の開講が決まりました。そこで、本セミナーの中心となる聖路加看護大学成人看護学准教授の宇都宮明美先生とパラマウントベッド株式会社の山口茂氏からコメントをいただきました。



(記者会見場での聖路加看護大学井部俊子学長とパラマウントベッド株式会社木村恭介社長)

シミュレーション教育による 看護実践能力習得への 新たな取り組み

急性期における現任教育では、身体症状の観察や基本的看護技術のみならず、

医療機器管理、合併症予防ケアなど習得すべき課題は山積しています。急性期看護の目標は、早期回復と重症化の回避の2点が挙げられますが、この目標を達成するためには、患者の臨床症状を的確に判断する能力と患者の病態に応じた看護実践能力が必要です。

本セミナーは、看護実践能力をビギナー、ベーシック、エキスパート・アドバンスという4段階にわけ、各段階での果たすべき役割を担うことができる能力開発を目的としています。病状悪化のサインを見逃さない、情報を正確に把握し医師との協働ができる、予測性をもったアセスメントから意図的な看護実践の展開ができることが目標となります。看護実践能力の育成には臨床経験の積み重ねが重要です。経験したことをリフレクションし、ケアに意味づけを行なうということです。今の臨床現場においては、この学習ができる環境がありません。この問題を解決する方略が、シミュレーション教育です。医療現場のさまざまな症例をリアルに再現し、症例における観察点の意義、ベストプラクティスの検討、現状分析に予測性を加味したアセスメントが行なえるよう、体験を中心にしたプ



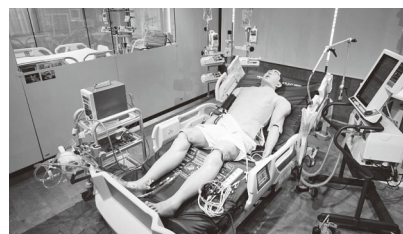
(同学宇都宮明美准教授と同社山口茂氏)

ログラムを展開予定です。(宇都宮明美)

産学連携事業の 意味するところ

従来の座学中心の看護教育から一歩進んだシミュレーション教育に対するニーズは確実に高まっているものと思われます。シミュレーション教育には、ハード面として「高機能患者シミュレーター」などの高額な機器投資に加え、講義に適した臨床現場を再現した会場が必要です。またソフト面としても、質の高い教育を実施するための「教育プログラム」に加え、臨床経験豊富な講師陣や運営スタッフなどの人的投資も必須です。クリティカルケア領域で活躍する看護師の皆様にシミュレーション教育の場を提供したいという両者が連携し、それぞれ得意分野を持ち寄ることで今回の「SCC セミナー」開催につながりました。

(山口 茂)



(実際の医療現場を再現した「メディカル・デザイン・スタジオ」)

●お問い合わせ先

〒136-8670 東京都江東区東砂 2-14-5
パラマウントベッド株式会社 営業本部
クリティカルケアチーム
ホームページ <http://www.scc-seminar.jp>